

# 国際協力の現場を語る

JICA（ジャイカ：国際協力機構）は、開発途上国の発展を支援するため、実務の経験と知識を持ったシニア（40歳～69歳）を途上国に「シニア海外ボランティア」として派遣しています。この人達はシニアならではの、海外旅行などでの体験とは違ったいろいろな体験をしてくれています。そんな話題も含めて体験を語って頂きます。

日 時：毎月第3水曜日 15時30分～17時  
 会 場：JICA 横浜 1階会議室  
 会 費：無料（どなたでも自由に参加出来ます）  
 主 催：NPO「シニアボランティア経験を活かす会」  
 後 援：JICA 横浜

問合せ先：  
 横浜市中区新港2-3-1 JICA 横浜3階 国際協力連絡室内  
 シニアボランティア経験を活かす会 神奈川分科会  
 Fax:045-663-3263 担当：白井道雄（045-891-5490）  
 Eメール：[jicasvob@kme.biglobe.ne.jp](mailto:jicasvob@kme.biglobe.ne.jp)



赴任国 (講師名)		「タイトル」 講演概要
第58回 6月16日 (水) アルゼンチン (吉田英雄)		「住んで見聞・体験したパタゴニア」 世界最南端の派遣地フェゴ島に2年間滞在して活動した、シニア海外ボランティアの見聞と体験に基づいて、一般に多く見られる探検記・冒険記の報告とは異なる「パタゴニア」の魅力を紹介します。
第59回 7月21日 (水) ネパール (宮井美津子)		「ネパールの女性と看護教育」 世界の屋根ヒマワの山々をすぐ近くに仰ぎみることが出来る緑豊かな町ポカラにある国立大学のナースィングキャンパスに赴任しました。信仰心が強くエネルギーで働きものの女性達から看護の本質を学ぶ機会が多い2年間でした。ネパールの医療や看護を中心に報告します。
第60回 8月18日 (水) ドミニカ共和国 (北條 登)		「2年間・ワクワクのドミニカ共和国ボランティア便り」 日本にはまだまだ馴染みが薄いのですが、年間400万人もの欧米人がやってきます。欧米人からするとカリブ海＝ドミニカ共和国です。素敵な海も紹介します。中米一陽気なドミニカンとの2年間の苦勞と楽しさ一杯の生活や私のおしゃべりを楽しんでください。
第61回 9月15日 (水) ブラジル (中瀬洋子)		「アマゾンの学び舎」 昨年はアマゾンに日本人が入植して80年という節目の年でした。アマゾン河口の町ベレンを拠点に、アマゾン川流域に点在する日本語学校を、飛行機、舟、バスで巡回指導しながら、各地でお話をうかがい、一冊の文集にまとめました。80年間守り、受け継がれてきた日本語教育への人々の思い、そして現在の姿を、お伝えしたいと思います。
第62回 10月20日 (水) パラオ (武藤宣光)		「[成人病]は先進国の病気？」 「メタボ」は日本や先進国だけの問題ではない。戦後独立したパラオを始め太平洋諸国でも深刻な問題を引き起こしている。保健省（パラオ国立病院）で経営管理の指導に当たったボランティアの眼から見た同国の医療・福祉・保健の問題とその背景にある社会構造や日本との関係史についてお話ししたいと思います。